

(別紙8)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502512		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホーム みのり菊水元町		
所在地	札幌市白石区菊水元町9条1丁目3番1号 (電話) 011-871-2294		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年10月21日	評価確定日	平成21年10月30日

【情報提供票より】(平成21年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年3月1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	16人 常勤 16人、非常勤 0人、常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての 1、2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	水道光熱費:20,000円 暖房費:10,000円(11-3月)
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,400円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	17名	男性 3名	女性 14名
要介護1	4名	要介護2	8名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 84歳	最低 69歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人よつばクリニック、医療法人ファミリー内科、平井内科 医療法人長野病院、医療法人白石整形外科
---------	------------------------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームみのり菊水元町は、同法人が経営する福祉施設と共同の敷地内に位置し、建物前方の広い芝生にはベンチや椅子も備えられている。トイレや洗面所の数が多くエレベーターも設置されている。共用空間には、季節の装飾品や利用者の作品などが飾られ明るく落ち着いた雰囲気である。職員の対応はゆったりと優しく、利用者は寛いで穏やかに生活している。同法人は医療と福祉関連の事業所を数多く経営し、医療面のサポートに優れ、利用者と家族等の安心感強い。事業所間での職員の交流も盛んで、職員は、疑問点があれば、電話などで福祉器具やリハビリについてなど専門的な助言を受けることができる。また、地域との交流にも力を入れており近隣の方々との関係も良好である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念の確立、運営推進会議の2ヶ月1回の開催、家族等への個別のお便り発送、夜間想定避難訓練の実施など前回の課題は殆どが改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価表を職員全員に渡して項目を検討してもらい、ユニットごとに主任が中心になってまとめてから管理者が最終的に作り上げている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の討議内容は報告事項や行事予定などが中心であるが、避難訓練について地域との協力体制についての相談や行政担当者からの情報提供もあり、出席者の意見をサービス向上に生かしている。外部評価・自己評価も議題にしている。議事録も整備している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等が訪問の際、意見や不満などを気兼ねなく話せるような雰囲気づくりをしている。頻りに訪問できない家族等には、日用品の購入や訪問理美容の連絡など、折りにつけ電話し、その際に利用者の様子を報告し意見を聞いている。昨年は家族宛てにアンケートを実施し、寄せられた意見をサービス向上に反映させた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の花植えやゴミ拾い、地域の「ふれあい広場」、町内会主催のミニゲームなどに利用者は職員と一緒に参加し楽しんでいる。毎年事業所が主催するバーベキューには、町内会や近所の方々も参加している。また、近隣の小学校の運動会やお遊戯会を見学したり、近所の方から花をもらったり散歩中に声をかけてもらうなど地域との交流は盛んである。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時の理念を、前年度の外部評価の取り組み事項である地域密着型サービスとしての役割を目指した内容の理念に全職員で話し合い作り上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の理念を各ユニットに掲示し、パンフレットにも掲載している。毎朝朝礼で、法人の経営理念などと一緒に事業所理念を唱和しており、職員は常に理念を意識して日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の花植えやゴミ拾い、地域の「ふれあい広場」、町内会主催のミニゲームなどに利用者は職員と一緒に参加し楽しんでいる。毎年事業所が主催するバーベキューには、町内会や近所の方々も参加している。また、近隣の小学校の運動会やお遊戯会を見学したり、近所の方から花をもらったり散歩中に声をかけてもらうなど地域との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、自己評価及び外部評価を実施する意義について職員全員に説明している。外部評価については殆どの項目が改善されている。自己評価は職員全員に項目を検討してもらい、ユニットごとに主任が中心になってまとめてから管理者が最終的に作り上げている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の討議内容は報告事項や行事予定などが中心であるが、避難訓練について地域との協力体制についての相談や行政担当者からの情報提供もあり、出席者の意見をサービス向上に生かしている。外部評価・自己評価も議題にしている。議事録も整備している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	機会あるごとに区と連絡をとり運営上の相談をし、行政の担当者には運営推進会議にも参加してもらっている。また、市の主催する研修などにも積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の訪問時に利用者の状況を報告し、必要時には電話をしている。ホーム便りの「みのり通信」、金銭出納明細書を毎月郵送している。現在、前回の外部評価の取組事項であった個別のお便りを、事業所全体の様子が掲載されている「みのり通信」に加えて発送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が訪問の際、意見や不満などを気兼ねなく話せるような雰囲気づくりをしている。頻繁に訪問できない家族等には、日用品の購入や訪問理美容の連絡など折りにつけ電話し、その際に利用者の様子を報告し意見を聞いている。昨年は家族宛てにアンケートを実施し、寄せられた意見をサービス向上に反映させた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	技術向上を目的として年に2名ほど職員を交代するが、ユニット間での交流があり、行事も合同で行っているので利用者への影響は特にない。また、同法人の新設事業所に異動するケースがあるが、その際は、同法人合同の行事もあるので、また会えることやいつでも連絡できることを説明すると殆どの利用者が納得してくれる。家族等にも説明している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人事業所全体の合同研修・委員会活動、法人のグループホーム合同の研修が定期的に行われている。外部研修は、法人が職員に積極的に受講を勧めており、全職員が毎年必ず受講している。受講後の研修報告書はファイルに綴り、いつでも全職員が見ることができる。特に重要な研修については事業所で全職員に発表している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や地域のグループホーム部会の講習会で他の事業所の職員と交流するように努めている。また、同法人のグループホームを研修の一環として見学しており、行事などお互いのホームを行き来するなど交流を深める機会も多い。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人及び家族等にホームを見学してもらうことにしているが、本人が来られない場合は管理者が自宅を訪問し、入居前に顔馴染みの関係をつくっている。体験入居ができるので、体験してから入居した利用者もいる。入居してからは、好きな食べ物をメニューに取り入れたり、好みの雑誌を家族に頼んで持ってきてもらうなど環境づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の得意な利用者は豆の煮方や漬物の漬け方を教えてくれる。映画のDVDを借りてきて、利用者と職員と一緒に楽しんだりしている。職員が机で記録をつけているときに、利用者がさりげなく肩を揉んでくれたり飴をプレゼントしてくれることもある。男性職員が料理や掃除をしていると、「手伝おうか」と気を使って声かけしてくれるなど、利用者が職員を支えてくれる場面は多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりの中で、利用者が言葉を選んだり考えながら話したりする場合は、せかしたりせずゆっくり待つようにしている。また、利用者の表情から、トイレに行きたいのか、熱っぽいのかなど一人ひとりの思いや意向を把握しようと努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居当初、担当職員が家族、関係者から本人の情報を収集し、センター方式の表に記入する。それを基に計画作成者は家族、本人の意向を聞き、医療情報をも参考にし原案を作成している。ミーティングなどで意見を交わし、完成した計画書を家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は入居後の経過を観察し1ヶ月ごとに、次に3ヶ月ごとに2回ずつ見直し、状態に変化がなければ6ヶ月の期間で見直している。会議では目標の評価を行い、次の計画に反映させている。入退院時や状態に変化が見られる場合は、新たな計画を作成している。	○	状態に変化がない場合も定期的に個人の状態をモニタリングし、毎月の経過を職員間で共有が図れるような取り組みに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間の医療連携から、往診、訪問看護などの利用で入院回避に努めている。受診の送迎を行い、日用品の購入、墓参りなどの個人的な要望にも職員が同行し柔軟に対応している。法人の福祉機器事業所とも連携し、パワートレーニング機器を設置しリハビリに役立てている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力機関から月2回の内科医往診と週1回の訪問看護、また月2回の歯科医の訪問診療があり受診体制が充実している。入居前のかかりつけ医を継続している人もいる。専門的な治療が必要な時は家族も同行し、方針を話し合う中で主治医との関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化・看取りに関する指針」を入居時に書面で説明し、看取り介護に関しての同意書を得ている。看取りを行うことを前提に、主治医や看護師との連携、看取り介護の内容を詳細に明文化し、全体的な体制を整えている。家族との話し合いを繰り返す中で、方針を全員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は接遇の研修を受け、個人を尊重した言葉遣いで丁寧に接している。排泄の失敗があった時は自尊心を傷つけないよう、温かい対応を心掛けている。面会簿はカード式に替え、記録などの個人情報は事務室に保管し取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間は決めているが、起床や就寝などは個人の意向や状態に合わせて支援している。普段は散歩や買い物に出かけ、居間でテレビや新聞を読み、好みのコーヒーなどを飲み、ゆったりと過ごしている。職員は一人ひとりの自由な生活スタイルを支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の好みを入れ、ホームの畑で収穫した野菜類を調理し、食卓に彩りを添えている。利用者は、身体能力やその日の状況に応じて、食事への簡単な準備を職員と一緒にしている。作業テーブルを低めにして下膳なども安全にできるよう工夫されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴ができる態勢で、希望があれば19時までの夜間入浴も可能である。最低でも週2～3回は気持ち良く入れるように入浴剤などを工夫し、また異性介助を嫌がる場合は職員を代えて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は一人ひとりの出来ることを見極め、簡単な作業を通して達成感が得られるように配慮している。利用者は歌やレクリエーション、塗り絵などを楽しみ、遠出の外出行事や外食、買い物、ドライブなどで気晴らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季には毎日のように外に出て、ホーム前の公園や周囲の花を見て回り、近くの桜の杜に行くなど散歩を楽しんでいる。車椅子の利用者も一緒に参加している。冬季には大型店に車で行き、週に1～2回は買い物や外食に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外玄関は19時30分まで開けており、センサーで出入りを把握している。各ユニットの入口にはチャイムを付け、自由な出入りが可能なように配慮し、職員の連携で安全に見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の同法人福祉施設と合同で年2回、避難訓練を実施している。今回は町内会の会長、副会長と地域の消防団の協力が得られ、夜間を想定した訓練を実施した。年に3回、社内研修で救命講習を全員が受講し、同法人福祉施設との連携で災害に備えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が交代で作作り、法人の管理栄養士の指導で栄養バランスに配慮している。水分量の制限が必要な人には詳細な記録でチェックをしているが、全員の記録は取っていない。職員が摂取状況を観察し、十分摂れるように支援している。	○	個人記録に食事量などを記載する欄があるので、水分量も含めて、全員をチェックできるような工夫で、記録で確認する取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの共用空間は明るく、落ち着いた雰囲気である。広い窓から公園や事業所前を往来する人を見ながら過ごす自然な暮らしが伺える。テーブル席とソファの配置が工夫され、ゆったりと過ごせるような空間になっている。季節の装飾品や手作りの暦、行事の写真、塗り絵などが程良く飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が用意した暖簾を下げ、色分けした花の飾り物で自室が分かるように工夫されている。居室内は備え付けのロッカーに、自宅からテレビ、馴染みの家具や置物が持ち込まれ、家族の写真や趣味の塗り絵が貼られ、その人らしく過ごせる場になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。